

平成18年度事業報告

第1章 法人の概況

1-1. 法人の沿革

- ・昭和16年9月10日、石川武美が図書館設立を目的として財団法人「文化事業報国会」を創設。
- ・昭和22年12月1日、駿河台2丁目に女性専用図書館として「お茶の水図書館」を開館。財団法人名を「文化事業協会」に変更。
- ・昭和35年3月、財団法人名を「お茶の水図書館」と改称。
- ・昭和40年12月、駿河台1丁目に移転。
- ・昭和53年3月、財団法人名を「石川文化事業財団」と改称。その後、図書館事業部に加えて、文化事業部（昭和57年）、顕彰事業部（昭和62年）、生活文化研究所（平成3年）による4事業を展開。その後、平成13年までに図書館事業を中心とする1事業部に統合。
- ・平成14年11月、創設時の駿河台2丁目に移転。
- ・平成15年10月、専門図書館として再開館。

1-2. 寄附行為に定める目的（「寄附行為」第3条）

この法人は、一般文化の向上を図り公益に資するを以て目的とする。

1-3. 寄附行為に定める事業内容（「寄附行為」第4条）

- (1) お茶の水図書館の経営
- (2) 学術研究及び文化の向上発展並びに普及に関する施設の経営
- (3) 家庭に必要な諸般の講習並びに講演会開催
- (4) 日本文化の海外紹介及び普及
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

【註】(1)(2)に基づく、公開専門図書館としての図書館事業は、平成15年10月より再開した。また、(3)(4)に基づく文化事業は、お茶の水図書館の資料を活用して、セミナー等を開催した。

1-4. 所管官庁に関する事項

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

1 - 5 . 事業所の所在地

東京都千代田区神田駿河台二丁目 9 番地

第 2 章 事業の状況

2 - 1 . 図書館事業

お茶の水図書館は、平成 15 年 10 月に、女性専用の私立公開公共図書館から、専門図書館としてリニューアル・オープンした。当館は専門図書館部門と古典籍・古文書部門から成っている。以下、部門別に詳細を報告する。

(1) 専門図書館部門

専門図書館部門の蔵書の中核は、近代日本の女性雑誌群である。

これまで日本の図書館界では、雑誌の資料価値を低く捉えてきた傾向があり、原資料そのものを保存してこなかったという経緯がある。近年、公立公共図書館でも雑誌を収集、保存していく方針が新たに打ち出されるなど、雑誌への評価が高まっている。

当館ではこのような動きに先行して、すでに昭和 50 年代から、とくに女性雑誌の収集、保存に努めてきた。さらに、専門図書館化してからは、明治期以降の女性雑誌のバック・ナンバーも集中的に収集している。

明治期以降の女性雑誌の発行点数は膨大であり、それらの出版状況の全容はいまだ明らかにされていない。当館は、こうした原資料を所蔵する図書館として注目されてきており、これらの女性雑誌を調査研究する利用者を、全国各地、海外から迎えている。こうした利用を受け、当部門では、近代女性雑誌の所蔵館として重要な役割を担うべく、女性雑誌の収集をさらに進めていく方針である。

また、当館は、戦前の図書資料も多数所蔵している。この約 2 万 6 千冊に及ぶ図書資料群を基盤として、今後さらに、関連テーマの図書資料を収集し、蔵書を充実させていくことに努める。

資料の収集と整理業務

a. 雑誌の収集と整理

平成 18 年度の新刊雑誌の増加分は、和雑誌 178 タイトル・2,203 冊であった。このうち、購入分は 72 タイトル・842 冊、寄贈分（各出版社による）は 106 タイトル・1,361 冊であった。また、洋雑誌は 20 タイトル・260 冊であった（洋雑誌はすべて購入分である）。

バック・ナンバーの欠号補充を主な目的とする、古書雑誌の購入は、1 年間で 255 タイトル・3,142 冊であった。このうち新規タイトルは 108 タイトルであった。これらの古書雑誌

誌の大幅な増加は、平成 18 年 9 月から平成 19 年 2 月までの半年間に、女性雑誌を集中的に購入した結果である。ちなみにこの 6 ヶ月間で 243 タイトル・2,917 冊を購入している。これらの選書にあたっては、インターネットや古書店発行の目録を積極的に利用した。

以上により、平成 19 年 3 月末で、当館が所蔵する雑誌の総タイトル数は 937(和雑誌 845、洋雑誌 92)となった。

当館では、利用が多い女性雑誌を中心に、それらの「目次コピーファイル」(冊子体)を作成し、毎月更新している。平成 19 年 3 月末日で、その合計は 193 タイトルとなった。

利用者はこの「目次コピーファイル」を使って、特定の記事を検索できるだけでなく、衣食住の変化、流行、社会情勢の移り変わりを、時代の流れに沿って調べることができる。

-b. 図書の収集と整理業務

当部門では、「女性・生活・実用」をテーマとして、新刊書籍のほかに、古い実用書や社史等の古書の選書にも力を入れている。平成 18 年度は、とくに「百貨店」「下着」「履物」などの個別テーマを設けて選書した。平成 18 年度の受入冊数は 191 冊、このうち購入分は 129 冊、寄贈分は 62 冊(うち主婦の友社からの寄贈が 40 冊)であった。

以上の結果、平成 19 年 3 月末日で当館が所蔵する図書冊数は 26,036 冊となった。

閲覧業務 (雑誌・図書の利用状況)

-a. 入館者および利用概況

平成 18 年度の入館者総数は 1,013 人(女性 880 人・男性 133 人)であった。男性利用者は、平成 15 年度の開館以降、増加傾向にあり、平成 18 年度は最多数を示している。

長期休暇を利用し、北海道や九州、関西など遠方から来館し、数日間滞在して集中的に調査する利用者が目立った。こうした利用者の多くは、当館のホームページで雑誌の所蔵タイトルを事前に調査し、来館している。

このほか、博物館・美術館から、展示の下調査のために来館する事例が目立った。

-b. 雑誌の館内利用

雑誌バック・ナンバーの館内利用件数は年間で 1,803 件、タイトル数は 608 タイトル、7,026 冊であった。月平均では 150 件、51 タイトル、586 冊であった。

利用の多かった雑誌バック・ナンバーの上位 20 タイトルを次ページの表にまとめた。なお、『主婦の友』(大正 6 年創刊)のバック・ナンバーは、全冊、開架式で利用に供しているため、この表には含まれないが、利用頻度では最上位である。

研究調査のテーマとして「女性雑誌」「出版文化」を取り上げている利用者が多く見られた。具体的には、モノとしての雑誌(装丁・製本)、雑誌編集(誌名、キャッチフレーズ、特集タイトル)などが調査のテーマに選ばれている。

また平成 18 年度は「育児雑誌」がよく利用された。育児情報を入手する従来の実用的な利用よりも、「マタニティ雑誌の分析」「育児雑誌の変化」など「育児雑誌」そのものを研究対象とする調査であった。一方で、生活情報誌や健康雑誌は、最新号と最近のバック・

ナンバーが館内でよく読まれていた。

さらに、『主婦の友』バック・ナンバーの利用では、本誌だけでなく付録を併せて調査対象とするケースが多かった。

<利用が多かったタイトル(バック・ナンバー請求冊数ベスト20)>

	タイトル	冊数	創刊年	備考(利用が多かった年代)
1	婦人画報	610	明治 38(1905)	明治 38(創刊)～大正末、昭和 30～50 年代
2	アンアン	429	昭和 45(1970)	昭和 45(創刊)～現在
3	婦人公論	328	大正 5(1916)	大正～昭和 20 年代
4	オリーブ	302	昭和 57(1982)	昭和 57(創刊)～平成初期
5	たまごクラブ	282	平成 5(1993)	平成 5(創刊)～現在
6	ベビーエイジ	262	昭和 45(1970)	昭和 50 年代～平成初期
7	婦人之友	237	明治 41(1908)	大正～昭和初期
8	ノンノ	234	昭和 46(1971)	昭和 40～60 年代
9	オレンジページ	228	昭和 60(1985)	昭和 60(創刊)～平成初期
10	家庭画報	170	昭和 33(1958)	昭和 50 年代～現在
11	装苑	166	昭和 21(1946)	昭和 20 年代、40 年代
12	Vogue U.S.A.	162	(1935 年から所蔵)	1960 年代
13	ヴィヴィ	149	昭和 58(1983)	平成初期～現在
14	婦人倶楽部	147	大正 9(1920)	大正 9(創刊)～昭和 20 年代
15	婦人朝日	133	昭和 21(1946)	昭和 20 年代
16	新女苑	109	昭和 12(1937)	昭和 10 年代
17	オッジ	107	平成 4(1992)	平成 10 年代
18	婦女界	99	明治 43(1910)	大正～昭和 10 年代
19	わたしの赤ちゃん	95	昭和 48(1973)	昭和 50 年代
20	ジェイジェイ	93	昭和 50(1975)	昭和 50～60 年代、平成 10 年代

-c. コピー利用

コピー件数は 644 件、コピー枚数は 10,865 枚(雑誌 10,192 枚、図書 673 枚)であった。コピー枚数の 9 割以上が雑誌のコピーである。当館のコピー利用のほとんどが調査研究を目的としている。この研究テーマについては、次々項「-e. 研究テーマ」で説明する。

-d. 図書の館外貸出

1 年間の館外貸出の登録者は 53 人、登録者の累計は 245 人となった。貸出人数 98 人、貸出冊数は 287 冊であった。

当館では、都内近郊に限らず、遠方からの研究者も館外貸出制度を利用している。館内で雑誌を調査したあとに、同時代に出版された関連テーマの図書を借りていくケースが目立った。

前述の利用状況と利用規程を以下にまとめた。

件名	総数	利用規程
入館者数	1,013人 (女性：880人) (男性：133人)	入館料：1回 300円(税込み)
複写(コピー)枚数	10,865枚 (モノクロ：9,865) (カラー：1,000)	料金：モノクロ 50円(税込み) カラー 120円(税込み)
図書資料貸出	登録者数：53名 貸出総数：287冊 貸出人数：98名	登録：無料 期間：5日間(継続可) 冊数：5冊まで

-e. 研究テーマ

平成18年度における当館の複写サービスを受けた利用者の約8割が、論文執筆のための調査・研究を目的としていることがわかった(複写申込書による)。当館の女性雑誌と関連図書を使った調査・研究の中から、はじめに、おもな論文テーマを、次に、すでに公刊された論文・著作、学会発表資料を、以下に挙げる。

博士論文テーマ

大衆雑誌の表現史 / 女性誌と洋装化 / 既製服化とショッピングの誕生 / 妊娠・出産・出生前診断

修士論文テーマ

日米の育児雑誌の比較研究 / 『アンアン』にみる1970～1980年代における日本女性の顔と化粧 / 婚礼衣装の変遷 / 「もんぺ」の普及過程 / 女性誌における恋愛言説と女性のアイデンティティ / 女性誌に描かれた顔

卒業論文テーマ

女性雑誌の分析 / 近代日本の女性雑誌に関する研究 / 育児雑誌の分析 / 1970年代『アンアン』『ノンノ』の京都旅行記事の内容変化 / 『婦人グラフ』にみる大正・昭和のコーディネートと現代のアンティーク着物の比較 / 『コスモポリタン日本版』と『Cosmopolitan』の比較 / 大衆雑誌『キング』の社会的機能と意義 / ジーンズの歴史 / 植物と美容 / 性役割規範の解体と再生産 / 花森安治と直線裁ち / 白肌文化と日本の歴史 / 戦後の和菓子 / 美しさと美意識について / 化粧品広告の考察

海外研究者の論文テーマ

日米の育児雑誌におけるアドバイスおよびオンライン掲示板に寄せられる悩みの比較研究

掲載論文

- ・「戦時下に求められた女性のイメージ：『主婦之友』『婦人倶楽部』の口絵を中心として」
『イメージ&ジェンダー vol.6』（2006年3月発行）に掲載

著作

- ・「お化粧しないは不良のはじまり」山本桂子著 講談社
- ・「昭和のキモノ」小泉和子著 河出書房新社

学会発表

- ・「三井呉服店による第1回広告画図案懸賞募集の影響と受容について」（姫路市立美術館学芸員。於：大正イマジユリィ学会）
- ・「高度成長期における《おしゃれ》の問題：ショッピングのレジャー化と女性」（立教大学大学院文学研究科比較文明学科博士後期課程4年。於：同時代史学会定例研究会）

以上のほか、平成18年度に特徴的だったのは、女性雑誌そのものが研究テーマに選ばれていることである。主なテーマを掲げる。

戦後女性雑誌の研究 / 明治・大正期の女性雑誌研究：「画報」の特徴 / 女性ファッション誌の変遷 / 女性誌のキャッチフレーズの経年研究 / 女性雑誌のインタビュー記事の文体とその変遷 / 『オリーブ』と日本の少女文化 / 『オレンジページ』の特集タイトルの変遷

レファレンス(相談・参考)業務

利用者と積極的なコミュニケーションを図り、レファレンス業務を遂行した。専門的な調査テーマを持った研究者から相談・質問を受け、所蔵資料の紹介などを通して回答したことが、雑誌のコピーサービスや図書館の館外貸出へとつながった。具体的なテーマを掲げておく。

<服飾文化・ファッション>

「ズボン」ということばの変遷 / 和裁に使う紙製、布製の「指ぬき」の歴史 / 近代日本における家庭用ミシンを事例とした耐久消費財の普及過程 / 昭和初期の『主婦の友』に掲載された吉村みよしの最初の手芸作品 / 明治・大正期の女学生の袴姿 / 「色はけ」「彩色なおし」などの染織用語 / レトロなぬいぐるみの作り方

<美容>

1970年代、ウーマンリブが盛んだった時期の化粧法とその広告 / デトックス / 歯の「ホワイトニング」 / 資生堂の昭和54年「春の化粧品」のキャッチコピー

<暮らし・住まい・料理・食文化>

明治期から昭和30年代までのお風呂（浴室・浴槽・風呂釜） / 明治期から1960年代までの台所の変遷、とくにダイニング・キッチン / 戦時中の出征兵士の家族の生活、物価 / 革工芸の本、とくに大久保婦久子とその弟子猪俣伊治郎の作品 / 戦前戦後の嫁入り道具の変化 / 支那料理の受容の変遷 / 和菓子の歴史、作り方 / 江戸時代の稲荷ずしの形や販売方法 / 生活の中のお茶の作法（明治期から現代まで）

< 女性・家族 >

戦前と現在の日本女性の生活意識、特に結婚観の比較 / 昭和 28 ~ 30 年頃の『主婦の友』に掲載された「理想的男女交際グループとして：同志社教会若草会」という記事 / 戦前の婦人会 / 昭和初期の『主婦の友』に掲載された本多静六による人生相談の記事

< 出版・メディア >

『主婦の友』の製本が無線綴じになった時期 / 中原淳一が戦前に関わった雑誌『それいゆ』、『ひまわり』の所在 / 『主婦の友』に掲載されたビールの広告で一番古いもの

< その他 >

『主婦の友』に掲載された住井すゑの全集未収録の作品 / 画家・安藤軍治が昭和 34 年頃に描いた『主婦の友』の表紙絵

資料保存対策

当館では、全館的に「利用のための資料保存」対策を実施している。平成 18 年度の専門図書館部門での対策は、代替策として大正期『主婦の友』のカラーコピー複製本（54 冊）を、破損の予防策として保存箱・保存フォルダー（35 個）を、作製した。また、物理的な傷みが激しい資料を適宜、修理した。これらの作業はいずれも館内で職員が行なっている。

さらに平成 18 年度後半からは、書庫の環境整備対策のための調査の一環として、雑誌保存書庫の温湿度を毎日測定している。

(2) 古典籍・古文書部門

当館の活動のもう一つの大きな柱となる古典籍・古文書部門では、約 7 万点冊の成篁堂（せいきどう）文庫と、約 670 タイトル（約 2,000 点冊）の竹柏園（ちくはくえん）本の資料群を所蔵している。成篁堂文庫は、ジャーナリスト・言論家であった徳富蘇峰が、明治 30 年代から昭和戦前期にかけて収集した個人コレクションである。一方の竹柏園本は、国文学者の佐佐木信綱が所蔵していた万葉集関連の貴重書である。

これらの個人コレクションは、当館の創設時に、設立者・石川武美が購入したものである。

整理業務

昨年度に引き続いて整理作業を進め、古典籍（約 12,500 点）と古文書（約 2,000 点）の配架作業を終了した。

データベース作成・入力作業も継続して行ない、約 1,700 件の書誌データ、約 200 件の閲覧データ、約 250 件の寄贈図書データを遡及入力した。

成篁堂文庫には、洋書（整理済み。昭和 61 年に冊子体目録を刊行）や明治期以降の和図書（未整理）も所蔵されている。総数約 20,000 冊に及ぶ明治期以降和図書の整理を平成 18 年後半から開始した。徳富蘇峰による書き入れや傍線、付属資料などを書誌事項として記録し、蘇峰の個人コレクションの特色付けを出す工夫を行なっている。

閲覧業務

-a. 閲覧資料点数および閲覧者数

閲覧資料点数は 116 点、閲覧者数は延べ 88 名（括弧内は実数）であった。閲覧者の内訳は、教職者 28 名（大学関係では名誉教授 3 名、教授 10 名、准教授 4 名、専任講師 5 名、非常勤講師 3 名のほか、高等学校教諭等 2 名）、大学院生 21 名（博士課程 6 名、修士課程 4 名、研究生 1 名）、国公立・私立機関の研究者等 21 名（宮内庁書陵部、文化庁、東京大学史料編纂所、日本学術振興会、地方公共団体教育委員会、私立美術館など）、一般研究者 18 名である。この内、海外からの研究者は 4 名（アメリカ 2 名、イタリア 2 名）であった。

-b. 閲覧資料名および目的

閲覧資料 116 点のうち、閲覧資料名と閲覧目的の一部を、以下に記す。

- ・『菁華抄（巻第三）』（平安・鎌倉頃の写本）：古典籍に記載された漢籍佚文の研究
- ・『兼山麗澤秘策』（江戸末期写）：荻原重秀の研究
- ・『身延鑑（身延山根元記）』（貞享 2 年刊）：江戸初期江戸資本書肆の動向調査
- ・『一切経目録上巻（貞元新定釋教目録(上巻)）』（江戸末期写）：天野山金剛寺一切経の特質の解明
- ・大乘院文書『長谷寺建立秘記』（明応 5 年写）：興福寺大乘院による大和一円の支配の実態と、それに関連する言説との構造的解明
- ・『鈴木大自筆稿本』（江戸末期～明治初期写）：修士論文(幕末維新期の水戸藩の学者について)執筆のための研究
- ・『櫟翁稗説』（朝鮮明末期刊）：朝鮮中世典籍の書誌学的研究
- ・『廬山記』（宋刊）：中国古籍の製本についての調査
- ・竹柏園本『千哥』（江戸末期写）：近世万葉選歌の研究
- ・『ちんてき問答』（元和・享保頃刊）：「塵滴問答」諸本調査
- ・『無縁慈悲集』（万治 3 年刊）：日本の葬制・墓制史の研究
- ・『北斗集』（室町中期写）：室町時代水墨画賛の研究
- ・『Reflections and comments, 1865-1895』（1895 年刊）：ジャーナリストとしての徳富蘇峰研究

成篁堂文庫抄物調査

成篁堂文庫が所蔵する抄物の調査を柳田征司先生（奈良大学文学部教授、財団法人阪本龍門文庫理事）に依頼した。日本語の歴史がご専門の柳田先生は、日本語の変遷を明らかにするために、主に禅僧や学者などが作った「抄物」を対象に、長年にわたり全国規模で調査を続けられてきた、斯界の第一人者である。

調査は、『新修成篁堂文庫善本書目』に記載された抄物を中心に行なわれ、調査対象は、鎌倉時代から江戸時代初期までの古写本、小笠原家本（武家礼法の古写本群）、南北朝時代・室町時代の古版本（主に五山版）など、総数で約 700 点に及んだ。

写真掲載・翻刻掲載・放映への協力

古典籍・古文書の写真掲載・翻刻掲載・放映の申請に対し、本年度は合計 35 件を許可し

た。その内訳は、写真掲載 17 件、翻刻掲載 12 件、放映 6 件であった。使用目的は、大手出版社の研究書・学術書、大学紀要、学会誌、地方市史への掲載や、歴史展の展示パネル、テレビ歴史番組、DVD の作製であった。

-a. 写真掲載

『信長・義昭 五か条の条書』4 件、『西本願寺本万葉集』4 件のほか、『太平記』、『春秋経伝集解』、『伊達政宗書状』、『小峯文書』、『將軍足利義詮御教書案』、『古律書残篇』など、合計 17 件（小学館、文藝春秋、角川学芸出版、仙台市博物館、池田市歴史民俗資料館ほか）

-b. 翻刻掲載（一部引用翻刻）

『伊達政宗書状』、『大乘院御門主御代々相承次第』、『簡要類聚鈔第三』、『類聚世要抄』、『大乘院日記・御旧伝等目録』、『山城大井庄坪付地圖断簡（莊園地割文書）』、『梅尾明恵上人傳記』、『藤波文書第三巻』、『仏乗禅師東帰集』など、合計 12 件（東京大学出版会、毎日新聞社、仙台市博物館、中世文学会、解釈学会ほか）

-c. 放映

『西本願寺本万葉集』5 件（NHK 関連 3 件・民放 2 件）『信長・義昭 五か条の条書』1 件（NHK）、合計 6 件

寄贈資料の受入れ

平成 18 年度中に、当館古典籍・古文書部門が受領した寄贈資料は 79 点である。このうち、当館が所蔵する古典籍・古文書を調査研究した成果をまとめた論文の寄贈は、以下の 15 件であった。

- ・『『沙石集』諸本の成立と展開』【本文編】【資料編】（平成 17 年度早稲田大学大学院文学研究科へ提出の博士学位論文）
- ・『『弁道』考（一）：特に道元禅師の著述類における用字史を中心として』（『宗学研究』第四十八号に掲載）
- ・『楫取魚彦編『萬葉集千歌』の研究：浜松市立賀茂真淵記念館蔵本と本居宣長記念館蔵本について』（単行本）
- ・『嵯峨本再見：嵯峨本『撰集抄』についての書誌的報告』（『汲古』第 49 号に掲載）
- ・『禱釜巖釜考』（名古屋国語学懇話会発表資料レジュメ）
- ・『『日記故事』の現存本及びその出版の背景について』（『中国：社会と文化』第 21 号に掲載）
- ・『『論語義疏』校定本及校勘記：皇侃自序』（『実践女子大学文芸資料研究所 別冊 年報』に掲載）
- ・『太平記と古活字版の時代』（新典社研究叢書 178）（当館所蔵資料の写真掲載）
- ・『石橋陳人『茂園残話』の研究：福地苟庵の著述をめぐって』（『梅光学院大学地域文化研究所紀要』第 21 号に掲載）
- ・『『長谷寺験記』と興福寺』（『中世文学会 平成十八年度秋季大会 資料集』[同学会発表

資料]に掲載)

- ・『航海金針』の成立と流布」(津山洋学資料館 洋学研究誌『一滴』第14号に掲載)
- ・『莊嚴記』について」(『佛教大学総合研究所紀要 別冊 浄土教典籍の研究』に掲載)
- ・「嵯峨天皇の灌頂と空海」(『関西大学 文学論集』第56巻第3号に掲載)
- ・「神南散策4 神南庄と法輪寺・法隆寺・興福寺、その坪付と絵図」(『かんなび』拾号に掲載)
- ・「夏目鸞麿著 お茶の水図書館蔵『禱釜嚴釜考』について」(『解釈』11・12月号に掲載)

資料保存対策

当部門における資料保存対策は、貴重書庫全体の環境管理、小規模環境の整備としての保存箱の作製、利用を前提とする複製物の作製であった。以下に詳細を記す。

貴重書庫内の適正な温湿度管理を目指し、1日2回のデータ採取および見回り点検を励行した。また、閲覧資料を対象に事前に14点の保存箱を作製した。

他機関所蔵資料との比較調査のため、成簀堂文庫資料のうち、以下の13点の複製本を作製した。資料保存対策を実践的、効果的に行なうためには、資料の劣化状況を正確に把握しておくことが必要である。このため、当館では、対象資料のデジタル撮影、画像処理、印刷、製本まで一貫して、館内で職員が行なっている。

『論第五巻抄』(応永6年写、1冊) / 『仏所得法私』(文亀3年写、1冊) / 『第四巻論聞書(第四巻論訓談)』(元龜元年写、1冊) / 『中興禅林風月』(室町末期写、1冊) / 『雲如和尚文稿』(室町末期写、1冊) / 『枯木藁』(室町末期写、1冊) / 『禅林無尽蔵』(慶長頃写、1冊) / 『妙心寺入院法語』(慶長・元和頃写、1冊) / 『秘伝求聞集』(寛永21年写、1冊) / 『中興禅林風月集鈔』(寛永頃写、10枚) / 『和名并薬名異名』(寛永頃写、1冊) / 『文章枝葉』(寛永頃写、1冊) / 『中興禅林風月集』(明暦・万治頃写、1冊)

(3) 職員研修及び教育

研究会、講演会、見学会への参加

各担当業務の関連テーマに関する知見と技術を習得するため、以下の研究会、講演会および見学会に参加した。

<平成18年>

平成18年度専門図書館協議会総会・全国研究集会(6月) / 日本図書館協会資料保存委員会研修会(6月) / 情報保存研究会第6回オープンセミナー(専門図書館協議会主催。この項、以下、「専図協主催」と略す)(7月) / プレインテック情報館5.0セミナー(8月) / 平成18年度全国図書館大会(第92回岡山大会)第10分科会「図書館学教育」(日本図書館協会主催)(9月) / 科学技術分科会講演会「国立国会図書館雑誌記事索引」(専図協主催)(9月) / 市政専門図書館見学会(専図協主催)(11月)

<平成19年>

東京大学東洋文化研究所シンポジウム第2回アジア古籍保全講演会(東京大学創立130

周年記念事業)(1月) / 第4回情報サービス研究会(専図協主催)(2月) / 科学技術分科会エクセル体験会(専図協主催)(2月) / 「知の構造化と図書館・博物館・文書館」(東京大学公開シンポジウム)(2月) / 講演会「技術情報検索におけるXMLの役割」(専図協主催)(2月) / 成蹊大学図書館見学会(2月)

専門分野教育

- ・東京大学大学院人文社会科系研究科文化資源学研究専攻博士課程2年履修
- ・玉川大学通信教育部夏期スクーリング(博物館学)(8月)
- ・柳田征司先生による職員向け特別講義(成篁堂文庫所蔵資料を事例に、古典籍の目録のとり方、抄物についての講義、資料講読、関連資料の展示を行ない、職員12名が参加した)(8月)

(4) その他の活動

< 専門図書館協議会・全国研究集会第3分科会での発表 >

平成18年度専門図書館協議会全国研究集会の第3分科会(平成18年6月23日[金] 日本科学未来館[東京])において、「過去から未来へ繋ぐ“利用のための資料保存”：ライブラリアンによる基礎技術の導入と実践」というテーマで、当館の20年にわたる資料保存対策についての講演を行なった。

この分科会には、全国から50名以上の専門図書館員が参加し、講演後、具体的な保存対策について、活発な質疑応答が行なわれた。当館が作製している保存箱の実物やその作り方を示しながら、それぞれの現場で活用できるノウハウを紹介した。

また、この講演を契機に、当館ホームページ上に「資料保存に関するリンク集」(資料保存関連25機関の紹介)を公開した。

なお、この発表内容は、機関誌『専門図書館』219号(平成18年9月専門図書館協議会発行)に掲載された。

2 - 2 . 文化事業

(1) 第2回女性文化講演会の開催

第1回(平成17年度開催)のドイツのマルタ・カスペルス氏(フランクフルト市歴史博物館員)に次いで、スイス連邦工業大学図書館のクリスチーナ・グロス氏を招き、平成18年4月11日(火) 当館閲覧室にて、第2回女性文化講演会を開催した。同氏は当館所蔵の雑誌『主婦之友』を数年にわたり調査研究し、その成果を「『主婦之友』(1917年~1935年)にみる女性像とその変遷」という演題で講演した。通訳は弓削尚子氏(早稲田大学准教授) 当日の参加者は31名であった。

この講演会の内容は「Japanische Frauen - Ein Leitbild in Wandel : Die Zeitschrift Shufu no tomo 1917 - 1935」と題する博士論文にまとめられ、同氏はこの論文で博士号を取得している。

(2) 第1回近代出版文化史セミナーの開催

フリーランスのエディターである浜崎廣氏を招き、平成19年2月24日(土)当館閲覧室にて、第1回近代出版文化史セミナーを開催した。同氏は、平凡出版(現・マガジンハウス)に入社後、『週刊平凡』編集長、『anan・Olive』編集室長等を歴任した。こうした雑誌編集の経験談をまじえ、「作り手からみた女性誌の役割」という演題で講演した。参加者は25名であった。雑誌編集や出版を研究する若い学生の参加者が目立った。

(3) 「お茶の水図書館60年史(仮題)」の編纂準備

当館は、平成19年12月に創立60周年を迎える。これを記念して、当館の60年史の編纂と刊行を計画した。この年史の編纂は、当館のように歴史が長く、公益法人が運営する私立図書館は珍しいことから、図書館史的にも意義があると考えられる。平成18年度は、その準備作業として、記録資料の整理・調査を行なった。

(4) 「カラー復刻『主婦之友』大正期総目次」の索引作成

「カラー復刻『主婦之友』大正期総目次」(平成18年2月当財団発行)の索引を望む内外の声に応え、原資料の閲覧の利便性を高めることを目的として、索引作成の準備を進めている。

(5) 美術資料(原画・挿絵・原稿等)の貸出

当館では、雑誌『主婦の友』に掲載された表紙絵原画・挿絵原画等の美術資料を数多く所蔵している。展覧会出品の申請を受け、以下の機関へ原画等の貸出を行なった。

- ・神奈川近代文学館「吉屋信子展」(平成18年4月22日～6月4日):吉屋信子原稿、高島華宵挿絵原画20点
- ・弥生美術館「生誕百年記念 竹中英太郎と妖しの挿し絵展」(平成18年9月30日～12月24日):竹中英太郎の挿絵原画10点
- ・弥生美術館「生誕百年 挿絵画家 志村立美展」(平成19年1月3日～4月1日):志村立美の挿絵原画16点
- ・弥生美術館「落谷虹児展」(平成19年4月5日～7月1日):落谷虹児の挿絵原画等貸出準備と挿絵原画5点

2-3. 事務局

(1) 広報活動

ホームページでの広報

当財団の設立趣旨、事業概要のほか、図書館の広報としては、専門図書館部門では利用案内、和・洋雑誌所蔵リスト、テーマ別蔵書紹介、資料保存関連リンク集を、古典籍・古文書部門では利用案内、成簀堂文庫・竹柏園本の概説、所蔵目録(冊子体)の紹介などを、

ホームページ上で公開・更新し、広報に努めた。

当館見学会の実施

平成 18 年度は、以下の機関・グループから申請を受けて、当館の見学会を実施した。第 2 回見学会は、大学の「歴史とジェンダー」をテーマとするゼミ活動の一環として行なわれた。見学会後、それぞれの学生のテーマに沿って、当館の所蔵資料を使った調査実習が行なわれた。同ゼミは、今後も毎年、同様の趣旨で見学会と調査実習を希望している。

- ・第 1 回：平成 18 年 7 月 4 日（火）草加市図書館協議会 OB・OG 会 11 名参加。
- ・第 2 回：同年 7 月 14 日（金）早稲田大学法学部弓削ゼミ学生 4 名研修。
- ・第 3 回：同年 9 月 30 日（土）東京 BIRG 建築情報研究会会員 7 名参加。
- ・第 4 回：同年 10 月 24 日（火）東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館委員会 16 名参加。

図書館協力

職員 2 名が専門図書館協議会の広報委員に就任し、同協議会がインターネット上で配信する「メールマガジン・SENTOKYO」の新刊案内を担当した。「図書館・本」をテーマとする新刊情報をいち早く専門図書館員に提供するための、高い選書力が求められる業務である。

また、同担当者は平成 18 年 6 月に平成 18 年度専門図書館協議会総会・全国研究集会の運営補助業務に携わった。自館の単館としての活動だけでなく、外部での専門図書館界全体の活動に参加することは大きな意義があり、平成 19 年度も継続して同協議会の運営に参加する予定である。

(2) 管財部門の業務

当財団ビルでは、歴史的にも文化的にも貴重な資料を数多く所蔵しているため、その維持管理には細心の注意を払っている。平成 18 年度は、移転時に修繕できなかった箇所の整備を行なったほか、年間スケジュールに沿って、当財団ビルの点検、メンテナンスを実施した。また、所有ビル（主婦の友社ビル、主婦の友別館ビル）の劣化状況と修繕状況を調査し、それらの実態の把握に努めた。

(3) 資産運用委員会の活動

当財団の基本財産並びに運用財産の適正な運用を目的として、資産運用委員会での協議のうえ、活動を続けている。平成 18 年度は、社会的な状況にも恵まれ、運用実績は良好であった。今後数年のあいだに、基本的なポートフォリオを構築し、さらに安定した運用基盤を固めていく方針である。

(4) 公益法人制度改革に伴う申請の準備

平成 20 年度に公益法人制度改革法が施行されることにより、公益法人として新たに申請することが求められている。このため、平成 18 年度は、新法の考え方や申請手続きへの理

解を深めることを目的として、関連テーマの説明会やセミナーに積極的に参加した。今後も、財団内で申請に向けたスケジュールを立て、準備を進めていきたい。

2 - 4 . 役員会等に関する事項

(1) 理事会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H18.6.17	第 146 回	(第 1 号議案)平成 17 年度事業報告承認の件 (第 2 号議案)平成 17 年度収支決算承認の件	可 決 可 決
H19.3.24	第 147 回	(第 1 号議案)平成 19 年度事業計画承認の件 (第 2 号議案)平成 19 年度収支予算承認の件	可 決 可 決

(2) 評議員会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H18.6.17	第 123 回	(第 1 号議案)平成 17 年度事業報告承認の件 (第 2 号議案)平成 17 年度収支決算承認の件	可 決 可 決
H19.3.24	第 124 回	(第 1 号議案)平成 19 年度事業計画承認の件 (第 2 号議案)平成 19 年度収支予算承認の件	可 決 可 決